



新企画ハーバリウムで クラフト教室は大盛況

5月4日みどりの日、流山おおたかの森駅の南口都市広場で、流山グリーンフェスティバルが開催された。社会学部現代社会学科の学生たちの「ドライフラワーによるクラフト体験教室」も行われた。今年は例年のドライ

フラワーに加え、新たな試みとして、ハーバリウムを取り入れた。事前に用意した1500枚の整理券を超えるのべ161組が参加し、大盛況になった。(撮影：三好有香 池谷明日香 取材・文：三好有香)



土屋先生の緑の街への思い

同教室開催の背景には、園芸愛好家が自分の庭を無料で公開するオープンガーデンを研究している土屋先生の緑の街への思いがある。

2005年のガーデニングフォトコンテストの際、井崎流山市長が提案してできたガーデニングクラブのメンバーが、オープンガーデンをはじめた。土屋先生は、この活動を発展させることが、緑の街作りに役立つのではないかと考え、オープンガーデンをサポートしたいと考えている。

をいくつか選んで入れ、オイルを注ぐだけだが、豊富な色合いでみずみずしいインテリアとなる。

ドライフラワーとは違い、保存に気を使う必要もなく、時がたっても花の造形が崩れることはないのが一番の良さである。昨年より実験的に少しかけたが、とても好評だったので、今回はメイン企画として実施された。

花は昨年よりも大幅に増やし、15〜20種類で、すべて土屋先生のなじみの店である『有限会社プロフローラ』提供の花で

ある。土屋先生と8人の学生が、ハーバリウムに合う花を悩みなから選んだ。

土屋ゼミのゼミ長の福岡さんは、「ハーバリウムをやったことがないので、どの花がお客さんにつけるかという花選びが難しかった」と語る。

今回参加した学生たちは皆、事前にハーバリウムを作り、作業する上でのポイントやコツを掴み、それをもとに一般の参加者への指導に当たった。学生たちの熱心な事前準備で、参加者たちは誰もが「楽しかった」と笑顔を向けてくれた。

流山市は、それぞれの家の庭を充実させ、街路樹や緑地と合わせて市全体をひとつの森のようにする『流山市グリーン

チェーン戦略を推進している。緑の連鎖で涼しい風を街中に吹き込ませ、良好な環境やCO2

排出削減などを狙っているからだ。そのためには、より多くの人がガーデニングに興味を持つてくれることが必要だ。

しかし、今やガーデニングはおもに50代以上の女性の趣味になりつつある。体力が続かずガーデニングを卒業していく人

も増加している。オープンガーデンが減っていつてしまうのは本心にもったいない。

どうやってガーデニングに興味がない若者とガーデニングを楽しんでいる人を繋げられるかと思案した結果、この体験教室が始まった。

「インスタ映えるハーバリウムを投稿してもらうことで若者はもちろん、多くの人に流山市の人たちの活動を知ってほしい。ガーデニングとの出会いのきっかけになれば」と土屋先生は語った。